

第 11 回教育課程編成委員会 議事録

日 時：2018 年 8 月 23 日（木）14:00～15:00

場 所：下関福祉専門学校図書室

出席者

河田 洋治（社会福祉法人 菊水会 次長）

関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）

田中 満由美（下関福祉専門学校 教務部長）

平岡 慶介（下関福祉専門学校 教務主任）

藤岡 恵子（下関福祉専門学校 専任教員）

盛重 恵美子（下関福祉専門学校 専任教員）

欠席者

山本 美佐枝（社会福祉法人 下関市社会福祉協議会在宅福祉課長）

鳥居 紀子（公益社団法人日本介護福祉士会元副会長）

- 議題
- ・ 卒業者及び在学者状況報告
 - ・ 今年度の教育目標・課題
 - ・ 「福祉と文化」の授業について
 - ・ 各委員からの意見要望
 - ・ その他

- ・ 今年度の教育目標・課題について

平成30年度 教育目標

- (1) 自立支援、利用者本位の視点から尊厳を支えるケアの実践ができる。
 - 1 学年 : 自立支援の意義や尊厳の保持について理解し、利用者本位の視点を養うことができる。
 - 2 学年 : 実習において利用者本位の観点から自立支援を第一義とした介護過程の展開ができる。
 - (2) 客観的な記録・記述力の方法を身につける。
 - 1 学年 : 介護過程に必要な利用者の情報が収集でき、誤字脱字のない記録ができる。
 - 2 学年 : 実習日誌・介護過程の展開シートに丁寧に記録ができ、論文にまとめて発表することができる。
 - (3) 介護領域の基本的な理解のもと多職種協働によるチームケアができる。
 - 1 学年 : 介護の専門性や他職種の役割について理解し、チームケアの意義が理解できる。
 - 2 学年 : 実習において多職種協働が実践できる。
- ・ 教育目標に対して、各学年担任より補足説明をする。
 - ・ 1 年担任より到達目標の補足をする。
 - (1) 平成 29 年度は職業倫理に基づいた「自立支援」「利用者本位」の基礎的な知識・技術を身につけるとした。しかし、理解はしても介護者目線となっているため、今年度は「利用者本位」の視点を養うことを目標に掲げた。
 - (2) 平成 29 年度は記録が的確にできるとしていたが、評価としては自分だけしかわからない日記やメモのような記録となっている。よって今年度は水準を下げて、

まずは誤字・脱字のない文章が書けることを目標にした。総合演習の中でシート記入や小論文などの指導を予定している。

- (3) 平成 29 年度では基礎的なコミュニケーション技術を養うとしたが、自分の思いだけが先行してしまい多職種でのチームワークを生かすことができなかった。今年度はまずそれぞれの役割を理解することで、チームケアにどのように生かせるかを理解することを目標とした。

・2 年担任より到達目標の補足をする。

(1)「利用者本位」の視点以前に尊厳の保持を優先とした介護を望む。

(2)立案・実施・評価の面で座学が実習に結びついていない。

(3)コミュニケーション技術・能力に差がある。

・委員から昨年度の教育目標があると対比が出来るとの意見があり、次回の委員会から前年度の教育目標を添えるようにする。

・「福祉と文化」の授業について

・「口腔ケア」は施設での汎用度が高いため、学生に演習の時間を必要とするので、時間数を増やす。

委員から、職員対象に歯科医による講義もしているとの意見があった。

・「着付け」は利用者には無理な面がでてくるが、職員自身着付けが出来るとメリットある。夏祭りなどで職員が浴衣を身に付けると利用者は喜んでいる。

・「昭和史」で歴史というより、歌、特に文部省唱歌・昭和の歌・童謡などの指導が良いのでは。大きな声・笑顔で歌えるようにできるといいとの意見があった。

・各委員からの意見要望

・実習生は、実習で配属された部署の職員、または顔見知りにはしか挨拶をしない傾向だ。

そうなると、実際に働きだした場合に孤立してしまう。「挨拶」は基本である。

(回答)

・まずは1・2年生との合同授業（歌を歌うなど）を実施する。それによって、交流を図ることでコミュニケーション技術の授業にもつながる。

次回開催の日時

2019年3月に開催予定。